第２回の継続講座１－２を５月２０日(土)　13:30～15:30 に開催しました。

会　場：愛知文教大学　共同研究室

テーマ：授業づくりの“道標”とは？

講　師：学び合う学び研究所フェロー　木村　芳博先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学び合う学びを中心据えた教師の視点での道標です。 学び合う学びの授業実践をすると、学習態度が改善し学習内容が長く記憶に残り、問題解決能力が伸びることがよく分かりました。日々、授業を頑張りたいと思います。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学び合う学びを中心据えた教師の視点での道標です。「目的と手段(方法)と目標を考えた上で授業をすることが大切だ」と初任者研修の時に教わったことを思い出しました。今日のセミナーで、「どんな場面で何をねらうか(できるようになるのか)」がまさしく、初任者研修の時の内容だったのかと結びつきました。 英語教員として、道標のことについて当てはめるのであれば、目標を示すという側面において、can-do リストの作成及び提示や必要に応じて振り返りをすることなどが挙げられると感じます。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子ども主語でも教師の道標と一里塚です。 木村先生ありがとうございました。今日の２時間、先生からいっぱい学びました。若い先生方がリアルに学んでほしかったと思いました。もったいないと思いました。 先生のしっとりとした余裕のある語りとすてきなデザイン。参加した私たちを受容しそれぞれの見方・考え方を引き出す温かさと高度な技。どんな思いにも共感し価値づける教養。 私たちが立ち止まりこころの中に？や問いが生まれるしかけの数々。対話と活動を組織しつなぎともどしで学びを生み、永井先生との絶妙なコラボで学びを深め、もっと学びを味わいたいと私たちを学びの世界に誘う魔法。など、数えられません。 今、リフレクションし、學んだことをセミナー中ずっと喜んでいた身体に少しずつ聴いています。参加した皆さんと協同して學び、自分のリテラシー・コンピテンシー・表現力がちょっとでも高まっていて、若い先生たちとの學びで何かが伝わるといいなぁと思っています。もっともっと学びたいと思いました。これからもどうぞよろしくお願いします。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、授業づくりにおいて意図的な道標が必要であることです。 授業づくりの道標とは何か？という思いで参加させていただきました。木村先生の導入からまるで授業のように引き込まれました。「学びの道に全員向かわせる」「学び深める道を選定させる」「学びの道から避難させない」まさに道標をイメージしながら学び合う学びの大切な理念を再確認しました。ビデオ研修では、授業者が意図する道標を見つけることで自分の授業はどうか振り返ることができました。仕事に追われ、なかなかセミナーに参加できませんでしたがようやく学びの場に参加できてよかったです。教師の本質はやはり授業ですね。木村先生ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、授業づくりの道標とは授業者の理念・哲学ともいえることでした。

前回の講座では、小学校、中学校の授業実践に学び、授業づくりにおいて教師の持つべき指導・対応の土台としてキーワードを「引き出す」「聴き取る」「つなげる」の三つの視点で確認されました。今回の講座では、前回参加者のリフレクションから研修が始まりました。継続研修ならではのプロローグになりました。木村先生の研修デザインは独特で、授業づくりで大切にしたいキーワードを考え、整理をしてく手法が一貫していました。

２回目である今回も、子どもの学びを中心に据えての　教師の視点を三つで考え、参加者全員で交流する手法で進みました。

・学びの道に（　）ための案内　・学びを深める道を（　）ための標識

・学びの道から（　）ための看板　といった（　）の中にどんな言葉が入るのかを聴き合い、参加者の視点の違いに学びながら、自身の頭の中が整理されていく経験は新鮮であり、私自身が新任であった頃にこうした研修に参加できていれば、大いに違った教員生活が送れたものだと考えさせられました。授業者が、どんな道標が持てるか。これは、授業づくりをどう考えているかという哲学的な命題であり、少経験者だけではなく、すべての教師にとって大切にされるテーマであります。今回の参加者の中には、それぞれの納得解が生まれたことと感じながら貴重な時間を過ごすことができました。